

伊勢の **今** を伝える

ISEBITO NEWS

春・初夏号

第6号

いせびとニュース

6

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげ参り推進委員会
●発行部数 10万部
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL (0596)23-5166 FAX (0596) 23-5241
E-mail otayori@isebito.com

式年遷宮記念

「せんぐう館」開く

外宮・まがたま池畔

緑萌える池畔に

「せんぐう館」の扉が開いた。

起源より千三百余年、

懸命に伝えられてきたものは、何か。

次世代へ伝えていくものは――

日本の未来へ

想いを馳せてみよう。



「せんぐう館」開館の日、水上の舞台で舞楽や木遣りが奉納された。 撮影/阪本博文

休憩所や奉納舞台も

春らんまんの外宮・まがたま池のほとりに、「せんぐう館」が四月七日オープンした。

朱の欄干をめぐらした水上の奉納舞台、眺め良い休憩所、それに大屋根の「せんぐう館」が水面に影を映している。

千三百余年にわたり二十一年に一度繰り返してきた式年遷宮。神宮のもっとも重要な神事であるだけに、その詳細は秘されてきた歴史がある。

「せんぐう館」は、これまで一般には目にするのできなかった御装束神宝の製作工程を一部公開するという画期的な展示企画の資料館といえよう。

その筆頭は、外宮・正殿の側面を原寸そのままに建て上げた神明造の「御正殿」だ。

数多ある社殿のなかで、もっとも尊い正殿を間近からじっくりと眺める機会など、一般の参拝者には生涯ありうることはない。

代々、さまざまな困難を乗り越えて、遷宮が伝えてきたものは、何か。未来へ、どう伝えればいいのか。ふと、日本人とは、日本とは、を考えるヒントを得た心地になる。

一方、新たな休憩所(無料)は、まがたま池側にあり、飛来する水鳥や池畔の緑も心ゆくまで楽しめる。

水上舞台も再建された。ことしの観月会が楽しみだ。

●主な内容

- 2・3面 特集「せんぐう館」開く
- 4・5面 遷宮への道(上)
- 6面 立柱祭、上棟祭
- 7面 遷宮入門(その四)
- 8面 おかげの国をめぐる(十) いせびと歳時記



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

特集
せんぐう館
開く

貫くテーマは 伝える

「せんぐう館」の展示は、驚きに満ちている。公開不可とされたものが、目の前にある。神垣の奥にある外宮正殿、御装束神宝の太刀、鏡、彫馬制作の秘技、せんぐう館を、言葉を介さず伝えようとの意志が感じられる。

御扉に迎えられて

「せんぐう館」には、ミュージアムの堅苦しさとは無縁の明るさが漂う。周囲の環境に配慮した地上一階、地下一階建てで、太陽光発電のクリーンエネルギーを導入し、全館バリアフリーだ。

館内に入り、まず目を奪われるのは、エントランス・ロビー正面の「御扉」だ。昭和二十八年式年遷宮で調製された外宮正殿の扉で、次の式年遷宮で撤下されたものだ。ヒノキの分厚い一枚板の素木づくりに、飾り金具が輝きを添え、六十年の歳月を經ていつそう風格を深めたか見える。

四重の御垣内にある正殿の扉なので、参拝者には目にするこの

できないものの一つである。「木の文化」を担ってきた神宮の造営。正殿の御扉は、その象徴の一つといえよう。

匠の技継承のために

次の「遷宮シアター」室では、神宮の日々の営みと祭典・行事が美しいハイビジョン映像と音響で語られる。自然と調和しながら暮らしてきた日本人の心の拠り所を見るようだ。

「瑞穂の国」「遷宮絵巻」などの壁面展示を見ながら、次の展示室「永遠の匠たち」へ。遷宮の度に新しく調製される御装束神宝は、七一四種一五七六点。当代随一とされる伝統工芸の匠たちにその調製が託される。その仕

事ぶりも、公開は限られてきた。

今回、公開展示された轆轤宮の漆塗の妙技は、思わず目を見張る。また、華麗な玉纏御太刀も、細やかな多数の構成品の全てが整然と並ぶ。

レプリカではなく、いわば手本として伝統技術の継承のために御装束神宝を手掛けた匠たちにより製作されたものなのだ。

御垣内の正殿が目前に

最後の展示室は、地下一階から吹き抜けとなつている。遷宮の社殿造営に焦点を合わせた部屋で、宮大工のOBが作った精巧な外宮社殿配置の模型（縮尺二十分の一）があり、大小さまざまな工道具も展示されている。



エントランスの展示「御扉」。竣工式の日。



高さ12メートルの原寸大で再現された「外宮正殿」。

一方、遷宮で最も重要な祭儀である「遷御の儀」を実感できる渡御行列（縮尺六分の二）も興味深い。リアルな音響が伴い、新宮へ大神をお遷し申し上げる御列の玉砂利を踏む浅沓の音が遠ざかると、「カケコー、カケコー、カケコー」と鶏鳴三声、御扉を開ける合図が暗闇の中から聞こえてくる。見上げると、吹き抜けの大空間を占めるのは、原寸大の外宮正殿。東側から見た姿で、正殿全体の約四分の一を再現したものだ。ふつさりと言を載せる大屋根、天をさす千木、すくと立つ棟持柱。これが、神明造なのだ、しばし息をのむ。伊勢神宮の数多ある神殿のなかで最も尊ばれるうちの一柱の豊受大神をまつる正殿である。



緑豊かな「せんぐう館」へのアプローチ。



水上の奉納舞台では、開館を祝し木遣りや舞楽が奉納された。



「せんぐう館」の鋳物で葺かれた大屋根は、昔からあったかのように外宮の緑に溶け込んでいる。

世代へ、未来へ永遠に伝えられるべきもの、との強いメッセージではないだろうか。



休憩所横からの「せんぐう館」入口。



伊勢名物

赤福

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) ファクシマール 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>

外宮で憩う

まがたま池と外宮の緑にかこまれた「せんぐう館」。その南側は、四季折々の自然を楽しむ憩いのスペースとなっている。初夏には花菖蒲の名所となるだろう。



奉納舞台



(上)休憩所 (中)北回廊 (下)南側展示室
神宮の絵画などが展示されている北回廊に対して、南側は観覧を終えたあと、ほっとくつろぐスペースが用意されている。ここには、遷宮について検索できる端末コーナーもある。



まがたま池

せんぐう館

- 入館料 大人300円/小中学生100円
- 未就学児 無料
- 開館時間 午前9時～午後4時30分 (最終入館は午後4時まで)
- 休館日 毎月第4火曜日 (祝日の場合はその翌日)
- 特別展、体験講座、奉納行事などの最新情報はホームページを参照ください。
<http://www.sengukan.jp/>
伊勢市豊川町前野126-1
TEL 0596-22-6263



「遷宮シナター」。ハイビジョン映像で神宮や遷宮が語られる。

「瑞穂の国。神宮と稲作の関わりを神田や御饗を通して展示。」



「神宮式年遷宮」。1300年の歴史と概要を壁面展示で。



「永遠の匠たち1」。御鏡の制作について。



「永遠の匠たち2」。用材の木取り、木組みなどの現物を。

展示室のご案内



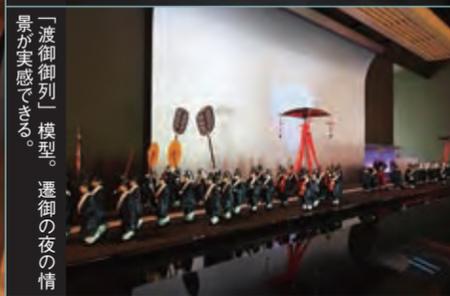
「永遠の匠たち2」。宮大工たちのさまざまな道具。



木の文化を語る外宮正殿「御扉」。エントランスホールにて。



「永遠の匠たち1」。御装束神宝の製作について。



「渡御御列」模型。遷御の夜の情景が実感できる。

まがたま池の景色に溶け込んだ建物を



せんぐう館 設計者 栗生 明さん

せんぐう館NOW
千三百余年の式年遷宮の歴史に耐えうる建物を建てるとなれば、軽々しいものは造れないと、内宮・外宮を何度も訪れ、神域をめぐり、神事に接し、構想を練りました。

制を受けますから。結論として、外宮正殿を地下一階から建ち上げて地上一階の吹き抜けに納め、屋根の勾配を萱屋根のそれと同じくし、入り子の状態にすることによって上部に空間をとり、天空に鋭角に稜線を描く萱屋根の雰囲気大切にすることができました。

その結果、ここまがたま池のほとりに昔からあったような景色に溶け込んだ建物を、と考えたのです。

休憩所は、参拝を終えた方々が、まがたま池の景色を額縁を通して見るかのように設計しました。晴れた日にはすべてのガラス戸を開け放ち、雨天や冬には閉めるなど快適にご休憩いただけると思います。

遷宮の今をテーマに



せんぐう館 初代館長 小堀 邦夫さん

当館は、式年遷宮を伝える資料館ですが、他の博物館などと違うところは、過去の遺産を伝えるのではなく、「今」をテーマに、次の世代へ伝えていこうとする点です。

正殿の原寸大模型を間近にご覧いただき、神宮・遷宮・神道を身近にお感じいただくきっかけとなるよう、願っています。今後、二カ月ごとにテーマを替える特別展や神宮の職員や研究者を講師とする講座、また、親子を対象とした体験講座なども企画しています。

ご参拝にこられた方が、お帰りに休憩所で休まれ、隣接する御装束神宝の製作工程や外宮御

明治13年(1880)、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遥拝所として建てられたのが「東京皇大神宮遥拝殿」、いまの東京大神宮です。皇室の御祖神である天照大御神をまつり、国民の総氏神として仰がれる伊勢神宮(内宮)の御神徳を皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころになるようにとの願いから創建され130年の歳月が流れました。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。



東京のお伊勢さま



東京大神宮

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-4-1
電話 (03) 3262-3566 FAX (03) 3261-4147
<http://www.tokyodaijingu.or.jp/>
JR総武線、地下鉄東西線・有楽町線・南北線・大江戸線
「飯田橋駅」徒歩5分

立柱祭・上棟祭 賑々しく厳かに

式年遷宮を一年余り後に控えた今年三月、
内宮と外宮で立柱祭および上棟祭が行われた。
天皇陛下が日次をお定めになる大祭で、
式年遷宮の造営にとつて大きな節目を
無事に越えたことになる。



立柱祭

●内宮 三月四日 ●外宮 三月六日

三月上旬、内宮・外宮それぞれの
新御敷地で立柱祭が行われた。
小工たちの打つ木槌の音が神域
のしじまに響きわたり、造営の
無事が祈られた。

十本の柱を打ち固めて

三月四日、皇大神宮(内宮)立柱
祭の朝、新御敷地には細やかな春
雨が降り注いでいた。

この日は、造営現場をすつぱり



棟持柱を慎重に運び込む宮大工たち。

もつとも長大な棟持柱が東西に立
てられ、大屋根まで伸びる束柱十
本もしっかりと立ち上がっている。
すべての柱は、大地に深く掘っ
た穴に基部を納め、周囲を埋め固
める日本古来の「掘立柱」の工法
で立てられている。これは唯一神
明造の特徴のひとつであり、地震
にも強いという。

立柱祭は、この柱を東西・南北
から貫く「足堅」・「四間貫」と呼
ばれる部材のすべての木口を木槌
で打ち固めて、造営の無事を祈る
儀式である。

神域に木槌の響き

祭場は雨天の儀式とあって、奉
仕員、参列者の席はいずれも、白
い天幕のもとにある。小工たちを
含む造営庁職員、神職、全国の神
社庁長たち、およそ百三十名、そ
れに報道陣百名近くが新御敷地に
控えていた。

祭りは遷宮諸祭のしきたりとし
て、造営庁によつてすすめられた。
まず、造営の守護神である屋船
大神に神饌を供え、祝詞を奏上。
造営の無事を祈られた。

つづいて、神職、造営庁職員に
よる八度拜の拍手が響く。

いよいよ小工たちにより柱の打
ち固めが行われる番だ。宮大工の
主だった者八名がこれを務める。
小工たちは素襦烏帽子に掛明衣
の姿で、いかにもすがすがしい。
柱の前に立ち、居すまいをたす
と、まず、南北から、次に東西か
ら、十本すべての柱を木槌で、三
度ずつ叩いた。



正殿(外宮)の最大の部材は棟持柱(直径約60cm、長さ約10m)だ。造営にあたり、山田工作場から新御敷地へ運び込まれ、すべての柱に先立って建てられた。



祭りに臨むにあたり、奉仕員を誂い清める。



参道を進む祭りの奉仕員たち。



御柱のもと、木槌をもつ小工。



神饌を納めた辛櫃を祭場に運ぶ。

力強い木槌の響きは、新御敷地
から神域へとひろがり、杜の奥へ
と吸い込まれていった。

新御敷地でも、豊受大神宮の立柱
祭が厳かに行われた。
この日は雨上がりのすがすがし
い朝を迎え、外宮に隣接する神宮

山田工作場で働く造営庁職員およ
そ百二十名も参列するなか、滞り
なく祭事は行われた。



小工たちにより、柱の打ち固めの儀が行われた。

http://www.iwatoya.co.jp

祝平成25年第62回神宮式年遷宮
お多福とともに岩戸屋は
今も昔も内宮前

伊勢・内宮前おはらい町
岩戸屋
TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE
珠魔
TEL 0596-23-6750

伊勢の上菓&デザート
百福軒
TEL 0596-23-3236
名物岩戸餅

ゆとりとやすらぎの宿
神宮会館
(財)伊勢神宮崇敬会

内宮に一番近い宿・歩いて5分
どなたでもご利用いただけます

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517
http://www.jingukaikan.jp

早朝参拝の
ご案内をしております。

上棟祭

●内宮 三月二十六日 ●外宮 三月二十八日

三月下旬、内宮および外宮の上棟祭が行われた。池田厚子神宮祭主の臨席のもと、「丈量の儀」、「御棟木奉揚」と、古式ゆかしい祭典で造営の無事が祈られた。



三百余の参列者にぎにぎしく
三月二十六日上棟祭の朝、皇大神宮(内宮)の新御敷地は晴れやかな緊張感につつまれていた。

造営途上にある正殿の覆い屋が大きく開かれ、屋根の千木には東に鎗矢、西に雁股が高々と掲げられ、棟木からは白布の引き綱が二本延びている。

祭場に臨むのは、大宮司率いる全神職、技師、小工たちからなる造営庁職員、参列者席には池田厚子神宮祭主をはじめ、神社本庁、奉賛会、崇敬会の長など、三百名を越える方々。場外にも多くの参拝者がたまたずんで祭りを見守った。はじめに、「丈量の儀」。小工二名が竹量(ヒノキ製3尺ほどの尺)を手に、床下にある心御柱から博士木(瑞垣御門の位置を示す杭)までを測り、その距離が古規と相違ないことを大宮司に報告した。次はいよいよ「御棟木奉揚」だ。



東の引き綱に造営庁職員、西に大宮司をはじめ神職たち、中央に造営庁技師二名と小工の長。「千歳棟!」と高らかに寿ぎの声が発せられた。



「おー!」と応え木槌を打つ小工。



大宮司に造営庁の技師が祭りの首尾を報告。



「丈量の儀」では、竹量を手心御柱から博士木までを測り、古規どおりであるかを確認する。

千歳棟! 萬歳棟! 曳々億棟!

棟木からの白い引き綱が小工によつて博士木に結わえられると、東に小工たち造営庁職員、西に神職たちが一列に並んでそれぞれに綱を手にとつた。正殿の前には、榊を手にした造営庁の技師二名と小工の長が立ち、屋上には、棟木の傍らに小工二名が木槌を手に控えている。はじめに、技師が大きく榊を振り、「おー」と声を発すると、「千

歳棟!」「おー!」「曳々億棟!」「おー!」とおおらかな応酬を参列者たちが晴れやかな表情で見守った。その後、屋上の小工により、北西にむかつて餅撒きが行われた。最後に屋船大神(造営の守護神)に神饌を供えて祝詞を奏上。無事に上棟祭を終了した。二日後、三月二十八日には豊受大神宮(外宮)においても同様に上

棟祭が行われた。内宮の祭りでは「千歳棟」を唱えた小工の小崎昌也さん(64)は、「新宮の無事完成とともに、世の中が平和でありますように願いをこめました」と語る。一方、外宮の祭りに奉仕した小工の中村英毅さん(51)は、「今日まで受け継がれてきた技術・技法を次の世代に伝えるためにも、さらに気を引き締めて造営に従事したい」と決意を語った。立柱祭・上棟祭を終えると、正殿の小工の仕事はほぼ終了し、屋根に葺を葺くばかりとなる。同じ敷地には、同時進行で東宝殿・西宝殿・外宮では御饌殿などの造営が着々と進んでいる。さらに、四重の垣をめぐらし、それぞれの門を建てる仕事もこれからだ。来年の夏ころには、新御敷地内のすべての造営が終わり、真新しい姿でそろうことになる。



(上) 神饌を祭場へ。(下) 池田厚子神宮祭主が参列された。



(上) 千木に飾られた鎗矢。(下) 上棟祭のクライマックス「御棟木奉揚の儀」。



参拝者に明治神宮靖国神社献饌講の方々より奉祝の餅が配られた。

美しい五十鈴川の水を生かした豆腐を作りたい

「和妙」にきたえ水の良さを最大限ひきたせるよう作りあげた豆腐です。

お豆腐ソフト(含んぱん)を50%以上含んだ、ふわふわのソフトクリームです。

うの花ビーなつ豆乳とおからを練り込んだヘルシーなソフトです。

伊勢おはらい町 豆腐庵山中

伊勢市宇治中之切町95番地 電話 0596-23-5558 定休日/木曜

伊勢内宮前 三重県伊勢市内宮おはらい町

TEL 0596-23-4175 FAX 0596-24-2510

参宮客をもてなす 名物ステーキ牛丼をどうぞ

外宮さんと内宮さん二つのお宮が永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より「二光堂」と名づけました。

http://www.nikodo.co.jp/

遷宮入門 その四

遷宮の祭り

式年の八年前——、森のなかで遷宮祭は始まる。御用材を伐り、運ぶ新御敷地に、柱を立て、棟を上げる御神殿の内を御装束神宝で調える三十二の諸祭と行事。古式のままに。

式年遷宮開始の祭り

式年遷宮は、式年に先立つことと八年前から準備が始められます。かつて遷宮を司る造宮使という役人が都から伊勢に赴任するのが近世は遷宮の八年前のこと



辛櫃に納められた御装束神宝、参列者すべてを清める川原大祓。(外宮)

Table with 3 columns: Year, Month, and Festival Name. It lists various rituals from the 17th year (2005) to the 25th year (2013), including the Grand Purification, Shrine Grounds, and various deity-related ceremonies.

Section titled '遷宮トピックス' (Shrine Relocation Topics) featuring a message from the forest of Ise Shrine. It discusses the spiritual significance and the role of the forest in the shrine's history.

遷宮諸祭の分類

三十数回ある遷宮諸祭と行事も、執り行われる順を追って見ていく



遷宮の最初の祭・山口祭。(内宮)

一ツには、造宮に用いる用材を山から頂くに際して行われる祭儀と、それを神宮に曳き入れる行事、そして造宮作業開始に際して行われ

遷御にかかわる祭儀

第三グループのキーワードは

御用材と建築にかかわる祭儀

先ず第一グループのキーワードは「山・木・曳」です。このグル

その後、御船代奉納式が行われます。御船代とは御神体にかかわる用具で、それを正殿内に奉納することで正殿の建築は完了するの

遷宮諸祭の中心である遷御の日時は天皇陛下がお定めになり、その翌朝、新宮で最初に神饌を奉る大御饌が行われます。其日の正午には、天皇陛下が遷御に際して奉

と行事があります。その中でも御木曳行事は参加人数が最も多く、期間も長いので、第一次と第二次とありましたが、ここでは一つの行事として数えました。

と、三つのグループに分類されます。第一グループは山口祭から御木曳行事まで九の祭儀、第二グループは鎮地祭から御鎮祭まで十四の祭儀、第三のグループは御装束

祭儀が集中しています。第二グループは、「地・建・社」です。最初に行われる鎮地祭で新宮を建てる御敷地を鎮めた後、社殿建築の最初に柱を建てる立柱祭が行われ、棟上げの上棟祭と続いでいきます。その後、屋根に関する櫓付祭と豊祭、正殿の扉の取り

「遷」のひとこと。すなわち最後のグループは新宮へ大御神にお遷りいただく遷御を中心に構成されています。新宮に奉献される御装束神宝はすべて新調されたものです。それを照合する儀式が御装束神宝読合で、数量などが確認されると、川原の祓所において川原大祓を行い、御装束神宝と遷御に奉仕する神宮祭主以下を祓い清めます。

Advertisement for Sekiya restaurant. It features a bowl of ramen and text promoting their 'Ise no Meisho' (銘品) ramen, highlighting the quality of the ingredients and the traditional preparation.

Advertisement for Koubenomiya Shrine. It features a photograph of the shrine building and text describing its location, contact information (0598-72-2316), and the services provided by the shrine, such as health and safety prayers.

「おかげの国」をめぐろう！

お伊勢さん百二十五社のたまたむ「おかげの国」。今回は、伊勢市内から度会町にかけて、緑あふれる宮川周辺を「案内」します。



おかげの国

伊勢志摩エリアは神宮の百二十五社が点在する「おかげの国」。官民の組織「おかげ参り推進委員会」が、おかげ参りのような旅の提案に取り組んでいる。
☎0596-255-1515
(事務局 伊勢商工会議所)

お伊勢さん125社とは

- 正宮(しょうぐう) 2社**
天照大神をまつる皇大神宮(内宮)と、豊受大神をまつる豊受大神宮(外宮)。
- 別宮(べつぐう) 14社**
正宮の「わけみや」の意味をもち、正宮と関わりの深い神をまつる格の高いお宮。式年遷宮も正宮に続いて行われる。
- 摂社(せっしゃ) 43社**
927年の『延喜式神名帳』に記載されている神社。
- 末社(まつしゃ) 24社**
804年の『延暦儀式帳』に記載されている神社。
- 所管社(しょかんしゃ) 42社**
正宮や別宮に関わり、水や酒、米、塩、麻、絹など衣食住をつかさどる神々が多くまつられている。

おかげの国めぐりにおすすめ!

「おかげの国」をめぐるとは「お伊勢さん125社めぐり」を。歩きに便利なMAPや周辺の休憩処・土産物、伊勢神宮の知識など、旅に役立つ情報がもりだくさん。
●三重県内の主要書店、観光施設ほかで発売中!
定価1260円 (送料1冊80円)
伊勢文化舎
☎0596-23-5166

その十 宮川めぐり

約11キロ スタート地点・三重交通・佐八バス停 ゴール地点 三重交通・度会小前バス停

このコースでは、清流・宮川を廻りながら、川・御園・水の神々を巡ります。このコースは、社と社の間隔がかなりあるので、ドライブやサイクリングがおすすすめ。のどかな田園や緑が映える山なみ、芽吹茶畑が眺められ、日本の田舎らしい風情が楽しめます。

佐八のバス停で降り、水田が広がる農道を進むと、正面に見える森が川原神社です。木漏れ日が明るい森の中は、野鳥のさえずりや沢の音が心を鎮めてくれます。県道を度会町方面へ。伊勢自動車道の高架をくぐり左手にあらわれる大きな生垣が園相神社です。参道の入り口に二本の背の高い杉の木がそびえています。地元では「久具都比賣神社」。

南伊勢大橋で宮川を渡り、対岸の度会町へ。このあたりは度会茶の産地。川岸には茶畑が広がっています。宮川の親水公園「宮リバー度会パーク」に立ち寄るのもおすすめです。宮川では夏から秋にかけて鮎漁をする人の姿もみられます。途中、神宮のお霊場もみることが出来ます。久具都比賣神社は、



宮川の中流域にある度会町では、お茶の生産が盛んだ。

おかげ参道の 屏風でたどる伊勢参り

5 旅姿一柄杓、草鞋、菅笠

門脇俊一画伯の大屏風には三百年前の風俗がよく描かれ、その旅姿には菅笠に草鞋、柄杓を手にする人が多い。笠や蓑座や草鞋は旅の必需品だが柄杓はいらない。どうしてだろう。文政十三年の『滑稽教訓御影参』には柄杓を持つ様子を「手水のためか水飲みか、報謝を受ける入れ物か、わけは知らねど各々が、柄杓たずさえ心いそいそうれしげに」と書く。

現在おかげ参りの姿を描けば柄杓を必ず描く。「伊勢は津でもつ津は伊勢でもつ、おかげ参りはみな柄杓もつ」というようにこれがおかげ参りのシンボルとされた。

一本の柄杓で参るありがたさ 柄杓なら通れと関でお汲み分け 古く柄杓は瓢箪を縦二つに割って作る水を汲む具であった。語源は「ひさご」から変化して、のち木をくりぬき柄をつけ、やがて曲物細工となる。神宮でも古くから手水用に内宮の近くの「ひょうたんや」に注文、江戸初期の地図にその屋号が見える。それが「俵田屋」になり今も神具製作所としてご繁盛。

さておかげ参りの人々はこれを道中の何処で買って持ったのか。これは文政に限ってのこと、それ以前には無かったらしい。伊勢に着いてから買うことはまず無い。いったい誰のアイデアで、何処の誰が儲けたのだろう。



文・矢野憲一 NPO法人五十鈴塾塾長。四十年間神宮に奉職した元神宮福宣。神宮司庁文化部長、徴古館農業館館長などを歴任。著書に「伊勢神宮の衣食住」、「鮎」、「アヅビ」、「杖」、「亀」、「桶」など多数。



川原神社の森



園相神社



久具都比賣神社

1川原神社 かわらじんじゃ(内宮摂社) 宮川の守護神をまつる。倭姫命が天照大御神の鎮座の地を求めて、宮川を下

2園相神社 そないじんじゃ(内宮摂社) 神宮の神饌を作る御園の守り神をまつる。倭姫命が滝原から宮川を下られた折、この地の園作神が大御神に御園の地を奉ったことにより定められた。

3久具都比賣神社 くぐつめじんじゃ(内宮摂社) 祭神の久具都比賣命・久具都比古命は、大水上神の子で久具の地を灌漑する水の神、五穀の神。こも倭姫命が宮川を下られた途中に定められた。



伊勢熨斗 伊勢志摩産のあわびを使った本物の熨斗袋



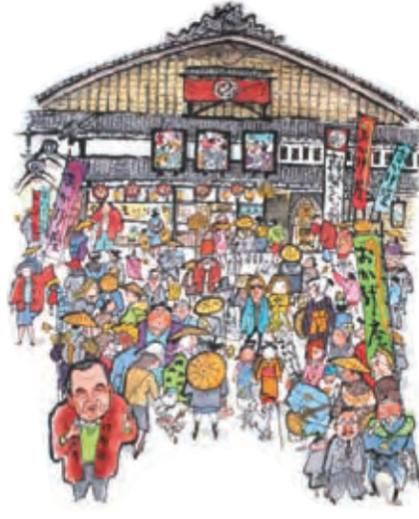
海女小屋はちまんかまど 海女の話聞きながら、海女小屋で新鮮な魚介に舌つみ

神話の時代から続く伊勢志摩の海女文化を伝えたい

海女文化を提供する 兵吉屋 〒517-0032 鳥羽市相差町1094番地 TEL 0599-33-6145 FAX 0599-33-7407

見よ、遊ぶ、味わう... 平成のお伊勢参りを体験しに いつへんきておくんない。

伊勢 内宮前 おかげ横丁 伊勢市宇治中切町52番地 ☎0596-23-8838(総合案内) http://www.okageyokocho.co.jp/



いせびと歳時記

春から夏にかけての伊勢志摩のまつり・イベント情報

4月

28日(土)〜30日(月) 春の神楽祭

内宮神苑の特設舞台(雨天時は参集殿で神宮舞楽が公開される。期間中は全国各地の名流名家によって献花式・吟詩舞・能楽などが奉納される。

28日(土)〜5月5日(土) おかげ横丁端午の節句

端午の節句にちなんだ屋台が並び、籠と兜を身につけての記念撮影ができる。

5月

5日(土) 倭姫宮 春の例大祭

参拝者に福引きや甘酒のふるまい、呈茶会などがあり、奉納行事も行われる。

5日(土) 夫婦岩大注連縄張神事

二見太鼓や木遣り唄が響くなか、氏子や参拝者が参道から大注連縄を夫婦岩へと手送りし、新しく張り替える。

5日(土) 御田祭



御田祭

神田の豊作を祈る祭り。桃山時代の風俗衣装の種方が田楽に合わせて早苗を植え、団扇角力、豊年踊りが行われる。

7日(月) 石神さん春祭り

海女たちの古くからの安息日「磯日待」にならって行われる。大漁祈願と大願成就を願い、多くの海女が石神さんに参列する。

8日(火) 志摩国分寺の花まつり

お釈迦様誕生を祝う祭り。季節の花で飾られた釈迦像に甘茶をかけ願い事をする。

12日(土) 神田御田植初

神様に供えるお米づくりの祭事。田植えの後、豊穣祈願の恵比寿、大黒の大団扇の所作や田舞が行われる。

12日(土)〜13日(日) 春の伊勢楽市

伊勢地方の地産品や工芸品が並ぶ名物市。例年たくさんの来場者で賑わう。

12日(土)〜20日(日) おかげ横丁風の市

伊勢神宮の風日祈祭に合わせ、全国各地の風鈴の展示販売や風にちなんだ手作り教室などが開かれる。

13日(日)〜27日(日) 第22回朝熊山つつじ祭

約6000株のつつじが朝熊山山の上に咲き誇る。開催期間中は、つつじの苗木プレセントや撮影会などさまざまなイベントが行われる。

14日(月) 風日祈祭

御幣、御糞、御笠を奉り、風雨の災害なく、五穀が豊かに稔るよう祈る。

14日(月) 神御衣祭

皇大神宮正宮と荒祭宮に、和妙(絹)と荒妙(麻)の夏の御衣を奉る。

19日(土)〜20日(日) どんどこ祭り

伊勢のれん会が自慢の味を披露。かつての舟参宮を再現した「どんどこ丸」の水の上パレードや常滑焼の即売もある。

21日(月) 藻刈神事

夫婦岩の沖合に鎮まる興玉神社から祝具「無垢塩草」を採取する。

6月

1日(金)〜7月8日(日) 高柳の夜店

伊勢の夏の風物詩。1:6:3:8のつく日と毎土曜日は高柳商店街に露店が並び、演芸会などの催しも開催される。

2日(土) 伊勢えび祭



伊勢えび祭

伊勢えびの豊漁を祈願する祭り。巨大伊勢えび神輿やじゃこっぺ踊りパレードなどさまざまなイベントを開催。

2日(土)〜3日(日) 斎王まつり

斎王が京から伊勢へと向かう旅路を再現した斎王群行が見どころ(3日)。町の特産品が多く出店する斎王市も開かれる。

2日(土)〜3日(日) おかげ横丁夏まちなみまつり

「夏まで待たない」を合言葉に、昔ながらの屋台や大道芸で賑わう一足早い夏祭りを開催。ゆかたのレンタル着付け(有料)もある。

2日(土)〜3日(日) あじさい祭

境内を取り囲むあじさいの見頃に、野点やとろろの販売、コンサートなどが催される。

15日(金)〜25日(月) 月次祭

皇室と国民のいやさかを祈って行われる大祭。三節祭のひとつ。

21日(木) 夏至祭

夏至の日の出とともに夫婦岩前で禊ぎを行う。夏至前後一カ月は、天候さえよければ夫婦岩の間から昇る朝日が拝める。

22日(金) 赤崎祭

赤崎神社へと続く路地にたくさん露店が並び、涼しげなかた姿の人々も多く、ゆかた祭」とも呼ばれている。この日、厄除けの杉の枝が授与される。

24日(日) 伊雑宮御田植式

日本三大御田植祭りのひとつ。大団扇がついた忌竹を奪い合い、その後早乙女らによるお田植が行われる。

27日(水)〜29日(金) 朝熊岳開山忌

中興の祖・仏地禪師の命日に合わせて神仏の供養、施餓鬼が行われる。伊勢志摩一円から参詣者がある。

7月

7日(土) しろんご祭

ホラ貝の合図で白い磯着姿の海女がいつせいに海に潜り、つがいのアワビの初採りを競う海女の祭典。

7日(土) 柴燈大護摩

7時から19時30分までの間、7回護摩をたく。参道には露店が並びにぎやか。

14日(土) 二見大祭 しめなわ曳

夫婦岩の大注連縄を奉曳車に乗せ、旅館街を練り歩き、木遣り唄や太鼓を披露しながら二見興玉神社に奉納する。

14日(土) 棒ねり

灯明の中、歌と太鼓に合わせて両端に五色の飾りをつけた棒を回し、豊漁と健康を願い、若宮神社へ練り込む。(中之郷17時35分発の定期船に乗れば祭りの見字可能)

14日(土) 伊勢神宮奉納全国花火大会

全国から選抜された花火師による競技花火大会。

15日(日) 河崎天王祭

神輿や河崎音頭のほか、夜店が並び、クライマックスには勢田川で水中金魚花火が楽しめる。

19日(木) 潮かけ祭り(大島祭)

海の安全と大漁を祈願する祭り。浜辺と船上で海女、漁師、見物人が海水をかけあう奇祭。

22日(日) 渡鹿野天王祭

「神遷の儀」のあとに神輿が島内を練り廻り悪魔払いをする。海上には祭りを盛り上げる花火が鳴り響く。

写真展「日本人のこころ」〜神宮の森〜

●常設(平成26年春頃まで)／撮影 森武史 ●9時〜17時(最終入場は16時30分まで)入場無料 伊勢市五十鈴町おほらい町通り(赤福本店横) 開場 赤福 ☎0596222154

おかげを感じる お伊勢まいり

お伊勢さん観光案内人と一緒に参拝しませんか? ●外宮と月夜見宮(予約不要) 近鉄宇治山田駅構内1F改札階下(10時20分集合) 外宮前名物「御膳酢」クーポン券付 期間/開催中/9月30日(日)まで 時間/10時30分/12時30分 料金/1名につき1800円(お伊勢さん観光案内人同行案内料外宮・昼食クーポン券) ●早朝の清々しい内宮(要予約) 期間/開催中/9月30日(日)まで 料金/1名につき2000円(お伊勢さん観光案内人案内料内宮・朝食券またはお土産券申込み・問合せ/美し国観光ステーション ☎0596243350

皇學館大学 創立百三十年周年・再興五十周年記念 特別展 神宮 参り・祈り・奉る 名宝展 節目の年に神々への崇敬を表した美術品類や、祭典絵巻・境内絵図・参詣曼荼羅などを一堂に公開。 期間/4月29日(日)〜5月26日(土) 休館日/5月6日(日)、13日(日) 時間/9時〜16時 観覧料/無料 場所/佐川記念神道博物館 問合せ/学校法人 皇學館 ☎05962226471

購読のご案内 本紙を購読ご希望の方は、ご住所・お名前・電話番号・希望号数を明記の上、1回につき送料100円の切手をお送りください。(年3回発行予定) (送り先) 〒516-0016 伊勢市神田久志本町1474-3 伊勢文化舎内 「いせびとニュース」係 ●訂正とお詫び 前号6頁「おかげの国をめぐろう」5段目前から3行目「山波石」は「三波石」の誤りでした。お詫びいたします。 ●伊勢からの便り 「せんぐう館」を隅々見て回って、改めて、千三百年に渡り二十年に一度繰り返してきた式年遷宮の重み、スケールの大きさに圧倒されました。「二十年先、四十年先を見据えた遷宮の技術と心を伝える施設」(学芸員談)として期待が高まっています。 発行人 中村 賢一 (伊勢文化舎 代表)

すべてセットのおトクなきっぷ。 “まわりゃんせ” 伊勢・鳥羽・志摩スーパーパスポート おとな 9,500円 こども 5,200円 4日間有効 ●発売期間:平成24年12月26日まで ●ご利用期間:平成24年12月29日まで ●お求め 近鉄主要駅(伊勢中川駅以西以北の特急券うりばのある駅)、阪神三宮駅、KNTツーリスト・近畿日本ツーリスト、JTB・日本旅行各グループほか主な旅行会社など ○旅客案内テレフォンセンター(8時〜21時)年中無休 大阪(06)6771-3105/名古屋(052)561-1604 まわりゃんせ 検索

伊勢志摩へでかけよう。 近鉄 logo すべてセットのおトクなきっぷ。 “まわりゃんせ” 伊勢・鳥羽・志摩スーパーパスポート おとな 9,500円 こども 5,200円 4日間有効 ●発売期間:平成24年12月26日まで ●ご利用期間:平成24年12月29日まで ●お求め 近鉄主要駅(伊勢中川駅以西以北の特急券うりばのある駅)、阪神三宮駅、KNTツーリスト・近畿日本ツーリスト、JTB・日本旅行各グループほか主な旅行会社など ○旅客案内テレフォンセンター(8時〜21時)年中無休 大阪(06)6771-3105/名古屋(052)561-1604 まわりゃんせ 検索